2023年度　日本工学院専門学校

コンサートイベント科

コンサートプロダクト３（制作）

対象	２年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	森永　直樹			実務経験	有	職種	マネジメント、ディレクター、A&R、プロモーション				

担当教員紹介

森永直樹：マネジメント業務を軸に、コンサート制作、マネジメント、ディレクション、プロモーションから新人発掘に至るまで
あらゆるエンターテイメント業務の経験と知識を通して就職に強い人材を育てることができる
また映像関連の業務（MV撮影、テレビ、映画など）にも携わっており学生の成長によって更なるカリキュラムの提供も可能

授業概要

多様化するコンサート・イベント業界に対応する為に、1年次に学んだコンサートの基本をより高度なものに高める。臨機応変な対応やトラブル対応など、実務として即戦力になれる力を身に着ける。コンサートの制作と運営の違いを学び、一つの公演を行うためにどれだけのスタッフが必要か、制作としての役割と運営としての役割を実際のコンサートを行いながら実践的に習得する。効果的な宣伝を行うにはどのようにしたら良いか、学校内はもちろん学校外での流行や動きを積極的にリサーチし、得たものを形にし実行する。チームごとの学習を多く取り入れ、自分が伝えたい事をより明確に相手に伝えるためにはどのようにしたら良いか、自分で考える事が習慣づくようになる。

到達目標

学校内での施設はもちろん、学校外の会場も使用し、1年次に培った経験を個々が活かし、円滑なコンサート運営を目標とする。ファンクラブ、グッズ、予算管理、チケット管理、客入れ客出しプラン作成、出演者とのやりとり、場内場外警備プラン作成、ロビー展開の考案、危機管理対策、コンサート運営に関するマニュアル作成とシミュレーション実施まで、チーム内で意見交換しながら作り上げていく。舞台・照明・PAなどテクニカルコースの学生を制作として統括するために、各セクションの役割を基礎実習で得た事を十分に活かしながら進行する。

授業方法

企業と手を組みながら、より本格的、多種多様なイベントへも参加し経験値を積む。
同時に複数のイベントを行い、より実務に近いカリキュラムを構築、実施。
学校外の会場を使用し、会場担当者との事前打ち合わせ等で得た情報を他コースへ共有し、情報共有の大切さを学ぶ。
コンサート制作コースの学生間、教員・講師との報連相を習慣づけ、コミュニケーション能力を身に着ける。

成績評価方法

提出課題　20%　春期課題、夏期課題提出と内容を評価する。
小テスト　40%　担当した出演者名や会場名、公演コンセプトなど理解度を確認する為に抜き打ちで実施する。
アイデア力　10%　新規取り組み、発想力を相対的に見て評価する
成果発表　30%　積極的な授業参加度、発表方法や内容・言葉遣いなどによって評価する。

履修上の注意

イベントやコンサートを行う際、一部の学生に作業と責任が集中することの無いよう、万遍なく学生を見る事を心がけ、偏りや贔屓が出ないよう配慮する。運営中、柵や看板など多くの備品を運ぶため、怪我をしないように十分注意する。音楽だけでなく演劇やフェスなど「エンターテイメント」全般の観劇や映像作品を鑑賞。PCで扱うイラストレーターも活用する。制作・運営の中でもどの職種をやりたいのかを明確にし、企業・組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。

教科書教材

ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用
オンライン授業動画：自宅での復習に活用

回数	授業計画
第1回	新入生歓迎ライブ（タイトル・コンセプト出し、公演概要書完成、チラシ・ポスターデザイン立案）
第2回	新入生歓迎ライブ（客入れ客出し方法を現場で実際にシミュレーションを行なった上で決定）
第3回	新入生歓迎ライブ（出演者用弁当を学校周辺やネット等で探して決定、ケータリング内容考案）
第4回	新入生歓迎ライブ（場内警備・誘導方法を提案後、現場でシミュレーションを行い決定させる）
第5回	新入生歓迎ライブ（電子チケット講座・配券講座受講、配布枚数・配布箇所を確認、チケット管理する）

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト３（制作）	
第6回	新入生歓迎ライブ（他コースとの打ち合わせを実施、確認と共有をしっかりと行う）
第7回	資料作りに関して（マニュアル作りやアンサーシート等に必要な知識やスキルを学ぶ）
第8回	外部会場の使用方法・構造についての授業（ZeppHaneda・CLUB CITTA'など、会場の特性や運営方法・禁止事項を学ぶ）
第9回	サマーライブ（班分け・役割決め・タイトル/コンセプト/ロゴ考案・公演概要書完成・収支表作成）
第10回	サマーライブ（会場下見・運営方法決定、宣伝資料作成・宣伝場所出し）
第11回	サマーライブ（新歓ライブよりも個々のレベルを上げる、プロモーション強化）
第12回	サマーライブ（全体の動きを見ながら自分の動きを考える、入場料有料公演/配信ライブ・有観客での対応）
第13回	サマーライブ（制作・運営のシミュレーション、タイムテーブルに沿って動きを最終確認）
第14回	サマーライブ（イベント要素も取り入れ、ライブとは少し違う雰囲気の楽しい場面を作る）
第15回	サマーライブ（反省会・報告書作成、次の公演に向けてアイディア出し）

2023年度　日本工学院専門学校

コンサートイベント科

コンサートプロダクト３（PA）

対象	２年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	中里　哲也			実務経験	有	職種	ＰＡエンジニア				

担当教員紹介

音響系学科卒業後、レコーディングスタジオ業務に従事しとして経験を積む。あわせてコンサート・イベント現場においてPAアシスタント～オペレーターの実務経験を積む。
現職では音響に関わる基本知識（音響理論・ミキシング技術）からデジタルコンソールの概念・スピーカのフライング等の授業を担当する。

授業概要

コンサートＰＡスタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、仕込み作業をスピードアップさせＰＡチームとしてのワークススタイルを確立し、更なるミキシングテクニックを実践的に学ぶ。この科目を受講する学生は、コンサート・イベント業界の中が協働の場である事を理解し、これまでは経験した事が無い舞台業界で求められる技術、知識を理解できるようになる。舞台とは「総合芸術である」その舞台演出の中でも音という分野を担当するという事はどういう事なのかを理解する。舞台音響業界はどのような人材を求められているか、その為にはどのような知識が必要で、どの様な人間であれば良いかを理解できる様になる。

到達目標

１年次で得た技術、知識をもとに、即戦力となるＰＡスタッフを目指す実習である。この科目は、学生が目指しているコンサート・イベント業界の中で活躍するイメージを持ち、その社会の中で自分を位置づけ、その中で音響業務を担う為の技術習得を目標とする。音響業界でもライブツアーやイベントPA・ホール管理、楽器店など多種多様な進路があり、その志望している業種、企業、職種を自分の適性や関心を結び続けて理解を深めること、そして就職志望する企業、組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする.

授業方法

出演者資料を基に必要な機材・仕込み図や回線表を作成する力を養い、その資料をもとにセッティング・音響調整等を行う。またその作業を反復練習することにより、理解度とスピードを上げていく。それに必要な知識、技術をゼミも併用して身につけ、グレード試験にて自己確認し次回の達成課題とする。共同で行う作業も多いが個別に担当する役割を確実に遂行し、その報告・調整等コミュニケーション力も合わせて培う。

成績評価方法

試験・課題　40%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
レポート　10%　理解度を確認するために実施する。
平常点　50%　実習時間内に行われる発表方法や内容、積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。

履修上の注意

コンサート・イベント科ＰＡ実習室等、にあるＰＡ（音響）機材を使用する。重量物も多くあるので怪我などしない様に安全第一で行う。また機材破損の無いように十分注意する。動きやすいパンツ、靴で臨み、実習ジャンパー、実習Tシャツを着用すること。作業用のグローブの着用、また必要に応じてヘルメットの着用もすること。長髪は結ぶこと。授業時数の４分の３以上出席しない者は、成績評価の対象としない。

教科書教材

適時、参考プリント、資料などを配布する。

回数	授業計画
第1回	１年次復習 / オンライン動画視聴、および実践的、セッティング反復練習し、技術を確認、理解する
第2回	実践的ＰＡ機材研究 / オンライン動画視聴、ラインアレイ研究、デジタル卓、デジタルネットワーク（DANTE）研究
第3回	楽器研究１ / ドラムキットの組立と、マイクアレンジを習得する
第4回	楽器研究２ / 楽器電源の取り方、ベースアンプ、ギターアンプのマイクアレンジを習得する
第5回	ライブ実習１ / 他コース合同コラボレーション実習　制作準備（ライブ実習形式）を行う

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト３（PA）	
第6回	ライブ実習２ / 他コース合同コラボレーション実習　本番、撤収（ライブ実習形式）を行い、作業工程を理解する
第7回	ライブ実習３ / 新入生歓迎ライブ　制作準備（プランニング、仕込み、チューニング、オペレート練習）を行う
第8回	ライブ実習４ / 新入生歓迎ライブ　本番、撤収、舞台音響の作業工程を理解する
第9回	楽器研究３ / 鍵盤楽器、キーボード、ＤＩ接続について研究する
第10回	楽器研究４ / 各種パーカッションのマイクアレンジ、弦楽器チューニングを習得する
第11回	学外ホール実習１ / 学外ホール実習　制作準備（プランニング、仕込み、オペレート、チューニング練習）を行う
第12回	学外ホール実習２ / 学外ホール実習　制作準備（リハーサル、セッティング模擬）を行う
第13回	学外ホール実習３ / 学外ホール実習　本番にて、作業工程を理解する
第14回	学外ホール実習４ / 学外ホール実習の反省と検証し、次回へ向けて課題確認する
第15回	グレード試験 / グレード試験　対策実習。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する

2023年度　日本工学院専門学校

コンサートイベント科

コンサートプロダクト３（照明）

対象	２年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	鈴木 裕大・東 浩平			実務経験	有	職種	照明エンジニア				

担当教員紹介

鈴木裕大：ホテルやゲストハウスにて演出業務を中心に従事し、培った接客営業スキルでサービス業を得意とする。
東　浩平：ホテルやコンサート現場での照明業務に従事。技術者としてだけでなくプランナーとしても活躍。

授業概要

1年次に学んだ舞台照明の基礎知識と技術を踏まえてより実践的な内容を学ぶ。昨今のコンサート業界で実際に用いられている機材に学内で触れることで、コンサートの現場へ就職した際に対応できる能力を身に付ける。学内外の施設を有効活用し、整った環境の中で舞台照明に必要な正しい技術の向上を図る。授業のアーカイブ化を実施することで、学内で学んだ内容を自宅で復習できる環境を提供する。

到達目標

以下の3つを習得することが目的
1. 照明機材の内部構造を理解しメンテナンスや修理ができる程度の技術を身に付ける。
2. ライティングデザインや本番実習を繰り返し経験することでコンサート全体の仕事を理解し、一つのイベントを学生のみの力で作りあげる。
3. 年間の実習を通してコンサート業界で働く姿勢を身に付け、卒業後に業界内で活躍できる人材を育成することを最終目標とする。

授業方法

○対面授業
1. 学内外の施設を活用しライブハウスやホールでのイベントを想定した準備～仕込み～本番～バラシまでの作業を実践的に学ぶ。
2. 色彩理論やライティングデザイン、安全衛生法等の必要知識を学ぶ講義形式の授業を実施。
○オンライン授業
1. 1年次の授業内容をアーカイブ動画を活用して復習する。
2. 2年次の授業内容をアーカイブ動画を活用して復習する。

成績評価方法

提出課題　　30%　定期的な課題の提出率、提出内容で評価。
グレード試験　30%　試験の合否、
授業成果　　40%　授業への取り組む姿勢を評価

履修上の注意

安全第一で授業を実施。重量物や昇降物がある為、声を出すことが非常に大切になる。照明スタッフは高所に上がることあり。
理由のない遅刻や欠席は認めない。挨拶をしっかりと行うことが大切。
グレード試験や小テストを行い理解度を確認する。
携帯電話は使用禁止。教室内は機材がある為、飲食は禁止とする。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

○舞台・テレビジョン照明：テキストを基に資料を作成。授業内で学生へ配布
○ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用
○オンライン授業動画：自宅での復習に活用

回数	授業計画
第1回	１年次の復習実習（仕込み・シュート・ピンスポット） 目標：仕込みからシュートまでの手順を時間内に終えることができる。ピンスポットの扱い方を再確認する。
第2回	３Dシミュレーションソフトについての講義 目標：３Dシミュレーションソフトの知識を学び、操作方法を習得する。
第3回	照明操作卓についての講義 目標：照明操作卓の操作手順を学びデータのプログラミングができる。
第4回	仕込み図面についての講義 目標：ライブハウスやホールでの仕込みを実施するための図面を作成できるようになる。
第5回	学内ライブ実習①(仕込み、シュート) 目標：限られた時間内で仕込み、シュート作業を終える。

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト３（照明）	
第6回	学内ライブ実習②(資料作成) 目標：ライブの本番実習に向けての仕込み図やフェーダー表等の資料作成を学び、完成させる。
第7回	学内ライブ実習③(テクニカルリハーサル、リハーサル) 目標：テクリハ、リハーサルを通して、ライティングデザインの修正、最終調整を行い本番に備える。
第8回	学内ライブ実習④(本番実習) 目標：本番、バラシ作業を通して担当セクションのスキルアップを目指す。
第9回	照明操作卓についての講義 目標：音楽に対してどのように照明演出をデザインするか、講義形式の授業を通して正しい知識を身に付ける。
第10回	学外ライブ実習①(資料作成、施設調査) 目標：学外施設を使用しての実習を通し、より現場に近い環境で技術を向上させる。その為の仕込図の作成、ホール資料の見方を理解し資料作成を完成させる。
第11回	学外ライブ実習②(ライティングデザイン) 照明卓を使用した明かり作り実習を通してムービングライトのライティングデザインを学び、理解する。
第12回	学外ライブ実習③(テクニカルリハーサル、リハーサル) 目標：テクリハ、リハーサルを通して、ライティングデザインの修正、最終調整を行い本番に備える。使い慣れない施設のの中での明かりの修正作業を身に付ける。
第13回	学外ライブ実習④(本番実習) 目標：本番、バラシ作業を通して担当セクションのスキルアップを目指す。有観客でのイベント実施を通して学生たちの責任感や達成感を経験させる。
第14回	学外ライブ実習⑤(反省会) 目標：学外ライブ実習の映像を基に照明的観点から反省と検証を行い、次回の取り組み方を考察する。
第15回	前期総括ミーティング、前期総復習 目標：前期の総括を行い、振り返る。前期で習得した知識と技術を再確認し、不明点があればコース全体で確認を行う。

2023年度　日本工学院専門学校

コンサートイベント科

コンサートプロダクト３（舞台）

対象	２年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	嶋田円歌			実務経験	有	職種	アーティストマネージメント・コンサート制作				

担当教員紹介

大学で演劇を専攻し、主に舞台美術、照明、舞台監督について実践的に学んだ後、音楽業界でアーティストマネジメント及びコンサート制作業務に13年間携わる。現場で培った経験を活かした実習指導を行いながら、就職活動のサポートも積極的に行っている。

授業概要

１年次で進めてきた実習内容のクリエイティビティの向上、それらを形にするための作業の精度を高めることとスピードアップを図ることを目的とします。学内実習では許容されていた時間配分、作業速度、完成度を反復練習をすることで、それぞれのスキルアップを図ります。また他セクションとのコミュニケーションを円滑にするために、ミーティングや作業を通じて,必要なスキルを様々なツールの操作技術をあげていきます。図面、タイムテーブル、進行表、道具帳、部材リスト、作業行程表、などへの、コンサートのプランニングやデザイン、アーティストの意向を正確に落とし込むことで、作業の効率化を図り、それを有効利用することで、コミュニケーション能力とチームワーク、更には人間力の向上を目的とします。

到達目標

新入生歓迎ライブ、サマーライブと、観客の層をより広げたものを意識したコンサートの成功を目指します。本番のクオリティだけではなく、アイディアを出し合うブレーンストーミング、デザインや演出内容の判断基準、美術セットなどの製作課程の精度とスピード、特殊効果や映像などの新しい演出アイテムの導入の仕方と、実際のプログラムやオペレーション等、初の校外実習となるサマーライブにおいて、学内でのルールではなく、学外のルールに適用する技術とスピード、学内の観客だけではなく一般の観客にも伝わる完成度を目指します。その成功の為に必要な責任感、成功から得られる達成感を就職活動においていかんなく発揮することで、個人の目標である就職を勝ち取ることを目標とします。

授業方法

１年次で進めてきた実習内容のクリエイティビティの向上、それらを形にするための作業の精度を高めることとスピードアップを図るために、学内実習では許容されていた時間配分、作業速度、完成度を反復練習をすることで、それぞれのスキルアップを図ります。また他セクションとのコミュニケーションを円滑にするために、ミーティングや作業を通じて,必要なスキルを様々なツールの操作技術をあげていきます。図面、タイムテーブル、進行表、道具帳、部材リスト、作業行程表、などへの、コンサートのプランニングやデザイン、アーティストの意向を正確に落とし込むことで、作業の効率化を図り、それを有効利用することで、コミュニケーション能力とチームワークの向上を図ります。

成績評価方法

授業成果	60% 実習への取り組む姿勢、特にチームワークで臨む実習、それに向けた準備についての貢献度を評価
提出課題	20% 定期的な課題の提出率、提出内容で評価。
グレード試験	20% 試験の合否

履修上の注意

仕込、リハーサル、本番に向けて、それぞれの局面における更新、変更事項に対する資料の修正、改善などをしていくのは、必須となります。その際のフォーマットのクオリティ、それらを各セクションで共有する手段と伝達方法は、作成するコンサートによって最善の方法が違ってきます。またデザインアイディアなどは、様々なコンサートを参考にできるように、常日頃の自主学習（アイディアの収集）は欠かせません。授業時数の４分の３以上出席しない者は単位を取得することが出来ない。

教科書教材

Vector Works 2021 Student edition　 microsoft office（特にExcel）　 google driveなど

回数	授業計画
第1回	１年次の復習　資料作成 / タイムテーブル、進行表、図面の作成すすることで、Excel Vectorworksの復習を目的とする
第2回	１年次の復習　イントレ作業 / 照明コースと合同でイントレ仕込みの復習とスキルアップを目的とする
第3回	新入生歓迎ライブ１，２準備① / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作
第4回	新入生歓迎ライブ１，２準備② / デザインアイディアの仮組　作業状態の確認、ステージセットデザインの決定
第5回	新入生歓迎ライブ１，２準備③ / リハーサル　照明、音響とともに仕込、出演者ありでのリハーサル。本番の成功に向けた修正

2022年度　日本工学院専門学校	
2023年度　日本工学院専門学校	
コンサートプロダクト３（舞台）	
第6回	新入生歓迎ライブ１本番 / 片柳アリーナにて実施されるミュージックカレッジ新入生歓迎ライブの本番の仕込、本番、撤収
第7回	新入生歓迎ライブ２本番 / 片柳アリーナにて実施されるミュージックカレッジ新入生歓迎ライブの本番の仕込、本番、撤収
第8回	Vector Works 2021　講座④ /道具帳を作成することで、さらに多くのツールの使用目的と使い方を習得する
第9回	特殊効果 / 演出に特殊効果を組み込むための特殊効果のデモストレーションと仕込
第10回	サマーライブ１，２，３準備① / デザインアイディア、タイムテーブル、進行表、図面のブラッシュアップ
第11回	サマーライブ１，２，３準備② / デザインアイディアの仮組　作業状態や作業手順の確認、ステージセットデザインの決定
第12回	サマーライブ１，２，３準備③ / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作
第13回	サマーライブ１，２，３準備④ / 照明、音響とともにテクニカルリハーサル、出演者を加えてリハーサルを実施。本番に向けて修正
第14回	サマーライブ１，２本番 / サマーライブ①②本番
第15回	サマーライブ３本番 / サマーライブ③本番

2023年度　日本工学院専門学校

コンサートイベント科

コンサートプロダクト３（企画）

対象	２年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	佐藤礼央			実務経験	有	職種	イベント企画				

担当教員紹介

青山学院大学院総合文化政策学修士課程修了。テレビ番組、CM、映画音楽の制作を２０年行う。企画、新規事業立案、ビジネスモデル立案などを担当した実務経験を持つ。

授業概要

・社会人としての「品格（挨拶、身なり、鉛筆の持ち方、食事の作法、姿勢、傾聴）」を習得。
・常に相手の立場を考えた行動言動を図る想像力を身につける。
・産学地域連携、分野横断プロジェクトなど、実践的なイベント企画制作を通して社会に出るためのスキルと人間力を培う。
・企業や地域社会（大田区）とのヒアリングを通し、本質的な課題を抽出し、KPI/KGIの適切な設定能力を養う。
・データに基づいた、マーケティングの方向性の設定。
・課題の解決につながるコンセプトの発案。
・「戦略」をより機能させるための最適なクリエーティブを通した「戦術」の提案能力を付ける。

到達目標

・大田区産学連携プロジェクトに基づいた実践的なイベント制作を通して、企画力・マーケティング能力を身に付けることができる。
・SDGSを主軸とした学習活動を通して、社会問題に対しての興味関心と、「高い倫理観」を養う。
・課題解決のために、仮説を立て、計画を練り、思考錯誤を繰り返す学習を通して、「戦略」をより機能させるための最適な「戦術」の発案能力を身につける。

授業方法

・授業の際に、口頭で長時間伝えるのではなく、伝えたい内容を、パワーポイントや板書などを用いて分かりやすく簡潔に伝える努力をする。
・学生自身が、「今、何を学んでいるのか？」を理解できるように指導する。
・時間に授業が終わるように管理を徹底する。
・学生にはメモを取る習慣を身につけさせる。
・習熟度の偏りが起きないように努める。
・学年を超えて、学生同士が「教え合い」「学び合う」教育の場を設ける。
・進路を常に意識させ、学習と共に就職活動を進めさせる。

成績評価方法

課題提出　　30%　定期的な課題の提出率、提出内容で評価。
レポート提出　10%　定期的なレポートの提出率、提出内容で評価。
グレード試験　20%　試験の合否で評価。
実習成果　　40%　習熟度・授業への取り組む姿勢を評価。

履修上の注意

イベント開催の際には、一部の学生に作業と責任が集中することの無いよう、全体的にを把握することを心がけ、偏りや最屓が出ないよう配慮する。運営中、柵や看板など多くの備品を運ぶため、怪我をしないように十分注意する。PCで扱うイラストレーター、無料映像ソフトも活用する。イベント企画・制作・宣伝・運営の中で、どの職種を目指したいのか進路を明確にし、企業・組織で協働することの重要性を理解できるようになることを目標とする。
・学生にはメモを取る習慣を身につけさせる。
・習熟度の偏りが起きないように努める。
・学年を超えて、学生同士が「教え合い」「学び合う」教育の場を設ける。
・進路を常に意識させ、学習と共に就職活動を進めさせる。

教科書教材

・イベント検定テキスト
・他、イベント毎に必要な資料を都度、準備する。
・名作、名画鑑賞、書籍。（時代と芸術の考察のため）

回数	授業計画
第1回	2年次オリエンテーション・１年次の反省・２年次の課題設定・就職活動における目標立て。（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム） アフターコロナに向けて、市場規模が拡大している産業の紹介など。
第2回	社会人基礎力を身に付け進路の方向性を定める（自己分析含む）（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第3回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの企画（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第4回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの制作（マニュアル作りや必要な知識やスキルを振り返る） （パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第5回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの制作（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム） （会場の使用方法・構造についての授業。会場の特性や運営方法・禁止事項を学ぶ）

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサート・イベント科　２年次	
コンサートプロダクト３(企画)	
第6回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの本番（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第7回	サマーイベントにむけて、場所のリサーチ。企画立案。（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第8回	サマーイベントにむけて、産学官連携ミーティング（特別授業）（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第9回	サマーイベントにむけて、企画の推敲。協賛呼びかけ。（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第10回	サマーイベントにむけて、デザイン、映像、書籍などの制作開始（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第11回	サマーイベントにむけて（６月 渡邊さん）※ZOOMではなく、リアル授業 Twitter/InstagramなどSNSマーケティングについて学ぶ ※NFTとアートの事例 ※ブロックチェーン技術の未来
第12回	サマーイベントにむけて　（６月 城田さん） ※ブランド戦略について学ぶ ※アーティストや芸人の戦略分析
第13回	サマーイベントにむけて、 映像制作・マーケティング能力を活用し、テーマに則った映像コンテンツを企画立案（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第14回	サマーイベント企画制作実習　(SDGSをコンセプトに、Kシティーで、産学官連携のイベント制作)（パワポを使った企画発表をグループで行うゲーム）
第15回	サマーイベントの振り返りと報告書作成